

# 電子磁気工業

## LED探傷灯に新型

### 広範囲照射・長尺物に最適

磁気専門の応用製品メーカーの電子磁気工業(本社―東京都北区、児島隆治社長)は、7月から最新型LEDブラックライト「LB-409」の販売を開始した。

「LB-409」は

据付型紫外線LED探傷灯で、昨秋に販売された「LB-406」の発展型。主な特長は広範囲照射が必要な検査や長尺物の鋼材の検査に最適な点にある。LEDを使用している

ため従来品と比較して、70%の消費電力をカットする事にも成功した。

同製品は、ブラックライトシリーズ最大の9灯のLEDを使用する事で広範囲に2m/c



広範囲に紫外線を照射

に2m/c

m以上の安定した紫外線を照射する。つまみによって強さの調光もできる。9個のLEDの配置や角度は広範囲に紫外線を照射できるように約1年間かけて、シミュレーションを重ね現在の形にした。紫外線強度は距離400mmの場合、ポリウム最大時で中心強度7mW/cm<sup>2</sup>。配光特性は高さ600mmの場合、幅670mm×奥行き420mmで2mW/cm<sup>2</sup>以上、幅770mm×奥行き520mmで1mW/cm<sup>2</sup>以上となっている。

同製品は、肉眼では確認できない傷を発見できるような磁粉探傷装置に備え付けられる。磁粉探傷装置を通して検査したい部品を磁化する比較的大きな傷があると磁気もれがある。そこで製品全体に蛍光磁粉を溶かした磁粉液を掛けると磁気の影響で傷のある部分に蛍光磁粉が集まり、ブラックライトを当てると傷口が明確になる仕組みになっている。

同製品は「LB-406」同様、コンセントを繋ぐだけで使用できる。ファンレスなので静音、メンテナンスも必要がない。フィン型になっているヒートシンクから熱を逃す自然空冷式になっているため、装置は外気温から15度までの上昇に抑えられる。

同社は磁粉探傷検査装置の分野では6割のシェアを誇っている。同製品も既に鉄鋼業界からの問い合わせもあり、今後とも拡販に注力していく。価格は税別で78万円となっている。

#### 鉄筋工事単価

## 関東、

関東地区の鉄筋工事

単価は、局地的な安値受注により、下値幅が広がっている。現場の